

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 29 年 1 月 19 日 (2017.1.19)

【公開番号】特開 2015-182006 (P2015-182006A)

【公開日】平成 27 年 10 月 22 日 (2015.10.22)

【年通号数】公開・登録公報 2015-065

【出願番号】特願 2014-60082 (P2014-60082)

【国際特許分類】

B 0 1 J 21/16 (2006.01)

B 0 1 J 32/00 (2006.01)

B 0 1 J 35/04 (2006.01)

F 0 1 N 3/28 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 21/16 A

B 0 1 J 32/00

B 0 1 J 35/04 3 0 1 C

F 0 1 N 3/28 3 0 1 R

F 0 1 N 3/28 3 0 1 P

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 12 月 6 日 (2016.12.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

なお、水銀圧入法は、圧力を加えて細孔内に水銀を浸入させ、圧力と細孔内に圧入された水銀量とから細孔分布などを測定する方法である。水銀圧入法では、より低い圧力で水銀が浸入し得る細孔の細孔径はより大きな値となり、逆により高い圧力でしか水銀が浸入し得ない細孔の細孔径はより小さな値となる。この測定原理に基づくと、水銀圧入法により測定される隔壁の細孔径が大きい場合には、当該隔壁では触媒スラリーが隔壁内に染み込み易いことになる。一方で、水銀圧入法により測定される隔壁の細孔径が小さい場合には、当該隔壁では触媒スラリーが隔壁内に染み込み難いことになる。「隔壁 14 における細孔径 10 μ m 以上の細孔容積率が 60 % 以上であり、かつ、隔壁 16 および / または外周壁 17 における細孔径 10 μ m 以上の細孔容積率が 50 % 未満である」との条件は水銀圧入法による測定値に基づく。当該条件が水銀圧入法による測定値に基づくことにより、上述の触媒スラリーの染み込みの度合いに関連させることができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

1 個目の完全セル 35 a と隔壁 9 を隔てて隣接する完全セル 35 を 2 個目の完全セル 35 b とする。さらに、3 個目以降の完全セル 35 についても同様に、n 個目の完全セル 35 に対し隔壁 9 を隔てて隣接する完全セル 35 を、「最外周から中心に向けて完全セル 35 の個数に換算して n + 1 個目の完全セル 35」として規定していく。図 5 中では、3 個目の完全セル 35 c をアスタリスクで示し、4 個目の完全セル 35 d をプラス記号で示す

。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

さらに、上述のような「隔壁 14 における細孔径 10 μm 以上の細孔径容積率 60 % 以上、かつ、隔壁 16 および / または外周壁 17 における細孔径 10 μm 以上の細孔容積率 50 % 未満」とするために、第 1 領域 13 を形作するための坏土（以下、「坏土（A）」）と、第 2 領域 15 を形作するための坏土（以下、「坏土（B）」）とが異なる平均粒子径の造孔材を含有していてもよい。このとき、坏土（A）の造孔材の平均粒子径が坏土（B）の造孔材の平均粒子径よりも大きいことが好ましい。具体的には、坏土（A）に含まれる造孔材の平均粒子径は 50 ~ 150 mm であり、かつ、坏土（B）に含まれる造孔材の平均粒子径は 30 ~ 130 mm であるとともに、坏土（A）に含まれる造孔材の平均粒子径が坏土（B）に含まれる造孔材の平均粒子径よりも大きいことが好ましい。さらに、坏土（A）に含まれる造孔材の平均粒子径は 80 ~ 120 mm であり、かつ、坏土（B）に含まれる造孔材の平均粒子径は 30 ~ 70 mm であるとともに、坏土（A）に含まれる造孔材の平均粒子径が坏土（B）に含まれる造孔材の平均粒子径よりも大きいことがより好ましい。